



ボイスメールの設定

- [ボイスメールワークフローの設定 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Jabber で使用する Cisco Unity Connection の設定 \(2 ページ\)](#)
- [取得とリダイレクションの設定 \(3 ページ\)](#)
- [ボイスメール サービスを追加する \(5 ページ\)](#)
- [ボイスメールのクレデンシャルソースの設定 \(7 ページ\)](#)

ボイスメールワークフローの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco Jabber で使用する Cisco Unity Connection の設定 (2 ページ)	Cisco Jabber がボイスメール サービスにアクセスできるように、Cisco Unity Connection を設定します。
ステップ 2	取得とリダイレクションの設定 (3 ページ)	ユーザがボイスメールメッセージにアクセスできるように、取得を設定します。ユーザが着信コールをボイスメールに送信できるようにするために、リダイレクションを設定します。
ステップ 3	ボイスメール サービスを追加する (5 ページ)	ボイスメール UC サービスを追加します。Jabber はこの情報を使ってボイスメール サーバに接続します。
ステップ 4	ボイスメール サービスの適用 (6 ページ)	サービス プロファイルにボイスメール UC サービスを適用します。
ステップ 5	ボイスメールのクレデンシャルソースの設定 (7 ページ)	ボイスメール サーバに接続するためのクレデンシャルを設定します。

Cisco Jabber で使用する Cisco Unity Connection の設定

Cisco Jabber がボイスメール サービスにアクセスできるように、Cisco Unity Connection を設定するための特定の手順を実行する必要があります。ユーザ、パスワードの作成、ユーザへのボイスメール アクセスのプロビジョニングなどの一般タスクの手順については、Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。



メモ Cisco Jabber は、REST インターフェイスを介してボイスメール サービスに接続し、Cisco Unity Connection リリース 8.5 以降をサポートします。

手順

- ステップ 1** [Connection Jetty] および [Connection REST Service] サービスが開始していることを確認します。
- [Cisco Unity Connection のサービスアビリティ (Cisco Unity Connection Serviceability)] インターフェイスを開きます。
 - [ツール (Tools)] > [サービスの管理 (Service Management)] を選択します。
 - [オプションのサービス (Optional Services)] セクションで、次のサービスを検索します。
 - [Connection Jetty]
 - [Connection REST Service]
 - 必要に応じて、サービスを開始します。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection の管理 (Cisco Unity Connection Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 3** ユーザのパスワード設定を編集します。
- [ユーザ (Users)] を選択します。
 - 適切なユーザを選択します。
 - [編集 (Edit)] > [パスワードの設定 (Password Settings)] を選択します。
 - [パスワードの選択 (Choose Password)] メニューから [Web アプリケーション (Web Application)] を選択します。
 - [次回サインイン時に、ユーザによる変更が必要 (User Must Change at Next Sign-In)] をオフにします。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 4** ユーザに Web Inbox へのアクセスを付与します。
- [サービス クラス (Class of Service)] を選択します。
[サービス クラスの検索 (Search Class of Service)] ウィンドウが開きます。
 - 適切なサービス クラスを選択するか、サービスの新しいクラスを追加します。

- c) [Web Inbox と RSS フィードの使用をユーザに許可する (Allow Users to Use the Web Inbox and RSS Feeds)] を選択します。
- d) [機能 (Features)] セクションで、[ボイスメールへのアクセスに Unified Client の使用をユーザに許可する (Allow Users to Use Unified Client to Access Voice Mail)] を選択します。
- e) 必要に応じて、その他のすべてのオプションを選択します。
- f) [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 5 [API の設定 (API configuration)] を選択します。

- a) [システム設定 (System Settings)] > [詳細設定 (Advanced)] > [API 設定 (API Settings)] を選択します。
[API の設定 (API Configuration)] ウィンドウが開きます。
- b) 次のオプションを選択します。
 - CUMI を介したセキュア メッセージ録音へのアクセスを許可する (Allow Access to Secure Message Recordings through CUMI)
 - [CUMI を介してセキュアメッセージのメッセージヘッダー情報を表示する (Display Message Header Information of Secure Messages through CUMI)]
 - CUMI 経由のメッセージ添付ファイルを許可する (Allow Message Attachments through CUMI)
- c) [保存 (Save)] を選択します。

次のタスク

Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降を使用している場合は、[ボイスメールサービスを追加する \(5 ページ\)](#)。

取得とリダイレクションの設定

ユーザがクライアント インターフェイスでボイスメール メッセージにアクセスできるように取得を設定します。ユーザが着信コールをボイスメールに送信できるようにするために、リダイレクションを設定します。Cisco Unified Communications Manager で取得とリダイレクションを設定します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 ボイスメール パイロットを設定します。

- a) [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)] の順に選択します。

[ボイスメールパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Pilots)] ウィンドウが開きます。

- b) [新規追加 (Add New)] を選択します。

[ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ウィンドウが開きます。

- c) [ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ウィンドウで必要な詳細情報を指定します。
- d) [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 3 ボイスメールパイロットをボイスメールプロファイルに追加します。

- a) [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] の順に選択します。

[ボイスメールプロファイルの検索/一覧表示 (Find and List Voicemail Profiles)] ウィンドウが開きます。

- b) [次のボイスメールプロファイル名でボイスメールプロファイルを検索 (Find Voice Mail Profile where Voice Mail Profile Name)] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してプロファイルの一覧を取得します。
- c) 対象のプロファイルを一覧から選択します。

[ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ウィンドウが開きます。

- d) [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)] ドロップダウンリストでボイスメールパイロットを選択します。
- e) [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 4 電話番号設定でボイスメールプロファイルを指定します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが開きます。

- b) [電話を次の条件で検索 (Find Phone where)] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してデバイスの一覧を取得します。
- c) 対象のデバイスを一覧から選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが開きます。

- d) [割り当て情報 (Association Information)] セクションを探します。
- e) 適切なデバイス番号を選択します。

[電話番号設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが開きます。

- f) [電話番号の設定 (Directory Number Settings)] セクションを探します。
- g) [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] ドロップダウンリストからボイスメールプロファイルを選択します。
- h) 保存を選択します。

次のタスク

[ボイスメールのクレデンシャル ソースの設定 \(7 ページ\)](#)

ボイスメール サービスを追加する

ボイスメール サービスを追加して、ユーザがボイス メッセージを受信できるようにします。

始める前に

[Cisco Jabber で使用する Cisco Unity Connection の設定 \(2 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
[UC サービスの検索と一覧表示 (Find and List UC Services)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3 [UC サービスの検索/一覧表示 (Find and List UC Services)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] を選択します。
[UC サービスの設定 (UC Service Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 4 [UC サービスの追加 (Add a UC Service)] セクションで、[UC サービスタイプ (UC Service Type)] ドロップダウン リストから [ボイスメール (Voicemail)] を選択して、[次へ (Next)] を選択します。
 - ステップ 5 ボイスメール サービスの詳細を次のように指定します。
 - [製品タイプ (Product Type)] : [Unity Connection] を選択します。
 - [名前 (Name)] : PrimaryVoicemailServer などのサーバの記述名を入力します。
 - [ホスト名/IPアドレス (Hostname/IP Address)] : ボイスメールサーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
 - [ポート (Port)] : ポート番号を指定する必要はありません。デフォルトでは、クライアントは常にポート 443 を使用して、ボイスメールサーバに接続します。そのため、ユーザが指定する値は有効になりません。
 - [プロトコルタイプ (Protocol Type)] : 値を指定する必要はありません。デフォルトでは、クライアントは常に HTTPS を使用して、ボイスメールサーバに接続します。そのため、ユーザが指定する値は有効になりません。
 - ステップ 6 保存を選択します。
-

次のタスク

[ボイスメール サービスの適用 \(6 ページ\)](#)

ボイスメール サービスの適用

Cisco Unified Communications Manager でボイスメール サービスを追加した後、クライアントがその設定を取得できるようにするために、そのボイスメール サービスをサービス プロファイルに適用します。



(注) Cisco Jabber は、電話モードのみで展開している場合はボイスメール UC サービス プロファイルを読み取りません。

Cisco Jabber がボイスメール サーバ情報を取得できるようにするには、jabber-config.xml ファイルをボイスメール パラメータで更新します。

```
<Voicemail>
<VoicemailService_UseCredentialsFrom>phone</VoicemailService_UseCredentialsFrom>
<VoicemailPrimaryServer>X.X.X.X</VoicemailPrimaryServer>
</Voicemail>
```

更新が完了したら、すべての Cisco Unified Communications Manager TFTP サーバに jabber-config.xml ファイルをアップロードし、TFTP サーバノードで TFTP サービスを再起動します。Jabber クライアントをリセットします。

始める前に

[ボイスメール サービスを追加する \(5 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービス プロファイル (Service Profile)] の順に選択します。
[サービス プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Service Profiles)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3 目的のサービス プロファイルを検索し、それを選択します。
[サービス プロファイルの設定 (Service Profile Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 4 [ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile)] セクションで、以下のような設定を行います。
 - a) 次のドロップダウン リストから、サービスを最大 3 つ選択します。

- **Primary**
- セカンダリ
- ターシャリ (**Tertiary**)

b) [ボイスメールサービスのクレデンシャルソース (Credentials source for voicemail service)]
で、次のいずれかを選択します。

- [Unified CM - IM and Presence (Unified CM - IM and Presence)]: インスタントメッセージおよびプレゼンスのクレデンシャルを使用してボイスメールサービスにサインインします。このため、ユーザはクライアントでボイスメールサービスのクレデンシャルを入力する必要ありません。
- [Web会議 (Web conferencing)]: 会議クレデンシャルを使用してボイスメールサービスにサインインする、このオプションはサポートされません。現時点では、会議クレデンシャルとは同期できません。
- [未設定 (Not set)]: このオプションは、電話モード展開の場合に選択されます。

ステップ5 [保存] をクリックします。

ボイスメールのクレデンシャルソースの設定

ユーザのボイスメールのクレデンシャルソースを指定できます。



ヒント

ハイブリッドクラウドベース展開では、VoiceMailService_UseCredentialsForm パラメータを使用して、コンフィギュレーションファイルの一部としてボイスメールのクレデンシャルソースを設定できます。

始める前に

[取得とリダイレクションの設定 \(3 ページ\)](#)

手順

- ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ2 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービス プロファイル (Service Profile)] の順に選択します。
- ステップ3 適切なサービス プロファイルを選択し、[サービス プロファイルの設定 (Service Profile Configuration)] ウィンドウを開きます。

ステップ 4 [ボイスメールのプロファイル (Voicemail Profile)] セクションの [ボイスメール サービスの認証情報ソース (Credentials source for voicemail service)] ドロップダウンリストから、[Unified CM - IM およびプレゼンス (Unified CM - IM and Presence)] を選択します。

(注) [ボイスメールサービスの認証情報ソース (Credentials source for voicemail service)] ドロップダウンリストから [Web カンファレンシング (Web Conferencing)] を選択しないでください。ボイスメールサービスのクレデンシャルソースとして会議のクレデンシャルは現時点では使用できません。

ユーザのインスタントメッセージングおよびプレゼンスのクレデンシャルは、ユーザのボイスメールクレデンシャルに一致します。このため、ユーザは、クライアントユーザインターフェイスでボイスメールクレデンシャルを指定する必要はありません。

次のタスク



重要 サーバ間でクレデンシャルを同期するメカニズムはありません。クレデンシャルソースを指定する場合、それらのクレデンシャルがユーザのボイスメールクレデンシャルに一致することを確認する必要があります。

たとえば、ユーザのインスタントメッセージおよびプレゼンスのクレデンシャルとユーザの Cisco Unity Connection クレデンシャルが一致するように指定します。ユーザのインスタントメッセージおよびプレゼンスの各クレデンシャルが変更されたとします。この場合、そのユーザの Cisco Unity Connection クレデンシャルは、変更内容に合わせて更新する必要があります。

クラウドベースの展開では、設定ファイルのパラメータ VoicemailService_UseCredentialsFrom を使用できます。Cisco Unified Communications Manager クレデンシャルを使用して Cisco Unity Connection にサインインするには、このパラメータの値を phone に設定します。
